

令和5年（2023年）度行政評価シート【個表】

令和 5 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	文化課長 島田 義正	
共生-22	文化行政推進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	文化課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	2-(2) 文化	施策の方針	2-(2)-①文化活動の支援・促進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉の文化の質的向上と豊かな市民生活の創造を図るため。
効果	市民をはじめとする多くの人々が集い、事業を通じ文化活動の活性化を図る。

2 令和4年(2022年)度を実施した事業の概要

・小・中学生を対象に鎌倉ゆかりの文化人、芸術家等による出前授業を行った。
 ・子どもたちが日本の伝統的な芸術文化に接し、関心を高める機会として、文化プログラム事業(鎌倉こども能)及び伝統文化伝承事業を行った。
 ・旧前田邸の管理業務を行った。
 ・市民文化祭は、展示部門として美術・写真・書道の公募展と鎌倉彫・華道等の団体展、舞台行事部門は市民団体による音楽及び演劇等を実施した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	
01	鎌倉ゆかりの文化人、 芸術家等による出前 授業事業	ようこそ先達事業講師 謝礼	出前授業実施回数 (回)	4 / 5 200 / 250	5 250	- -	80.0%
02	ゆめひかる文化芸術 子ども表彰事業	ゆめひかる文化芸術 子ども表彰記念品	-	- / - 30 / 31	- 31	- 31	-
03	鎌倉こども能事業	文化プログラム事業委 託料	参加人数(人)	17 / 20 1,936 / 1,936	20 1,936	20 1,936	85.0%
04	鎌倉市民文化祭事業	鎌倉市民文化祭負担 金	観覧者数(人)	28,213 / 27,000 3,173 / 4,500	27,000 4,500	30,000 5,000	104.5%
05	文化活動補助事業	鎌倉市文化協会補助 金等	-	- / - 577 / 577	- 577	- 572	-
06	旧前田邸維持管理事 業	旧前田邸機械警備委 託料等	-	- / - 1,000 / 1,180	- 1,180	- 1,180	-
07	文化行政推進事業	文化行政推進事業消 耗品等	-	- / - 168 / 174	- 174	- 125	-
08	伝統文化伝承事業	伝統文化伝承事業委 託料	参加人数(人)	405 / 300 3,500 / 3,500	300 3,500	405 5,000	135.0%
09	エリアナ・パプロバ顕 彰碑補修修繕事業	エリアナ・パプロバ顕 彰碑補修修繕料	-	- / - 3,001 / 2,977	- 2,977	- 143	-
10	高田博厚没後35周年 記念展事業	高田博厚没後35周年 記念展運営補助委託 料等	観覧者数(人)	898 / 2,000 1,526 / 4,049	2,000 4,049	- 0	44.9%
		財源 内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	181 / 151	151	151	
			一般財源	14,930 / 19,023	19,023	13,836	
			事業費の合計(千円)		15,111 / 19,174	19,174	13,987
			人件費(千円)		24,088	16,886	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.8	2.0	3.0	2.0		
会計年度任用職員	1.0	1.0	1.0	1.0		

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	鎌倉ゆかりの文化人、芸術家等による出前授業事業	新型コロナウイルス感染症による制限も緩和され、昨年度の実績値からは大きく回復し、目標値に近い件数の要望が学校からあった。	次世代を担う子どもたちに本物の芸術文化に触れる機会を提供し、子どもたちの文化芸術活動に対する意欲を高めることを目的としており、市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	教育総務課教育企画担当が所管する「鎌倉スクールコラボファンド」と実施内容が類似していることから、窓口を一本化し、効率的な事業展開を行うため、令和5年度以降は、当該事業と統合して実施する。
02	ゆめひかる文化芸術子ども表彰事業	表彰の候補者は各学校や保護者、関係者からの推薦や自薦であり、指標の設定は馴染まない。	文化芸術活動で優秀な成績を収めた子どもを表彰し、応援することで、子どもたちの文化芸術活動に対する意欲を高めることを目的としており、市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	-
03	鎌倉こども能事業	新型コロナウイルス感染症による制限が緩和傾向にあるものの、参加者数の大幅な増加はなく、目標値には到達しなかった。	日本の伝統的な芸術文化に接することで、感動を味わい、関心を高める機会の提供を目的としており、歴史を継承し文化を創造するまちづくりに寄与する。	-
04	鎌倉市民文化祭事業	新型コロナウイルス感染症による制限も緩和されつつあり、観覧者数は回復傾向にあり、目標値を上回る結果となった。	市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	市民文化祭を効率的に実施するため、市と市民の役割について整理しつつ、さらに事業費等の見直しを図る。
05	文化活動補助事業	文化芸術活動の質的向上に寄与する重要な事業であるが、補助金額については減額の可能性も考えられるため、指標の設定には馴染まない。	市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	-

06	旧前田邸維持管理事業	旧前田邸の活用については、建物の用途上の制限や改修等に係る費用などの課題が多いため、指標の設定には馴染まない。	今後も本市の文化行政に寄与するよう、旧前田邸の維持管理を行い、活用について検討する。	旧前田邸の活用には、耐震やバリアフリーのための改修等に係る多額の費用が必要である。
07	文化行政推進事業	義務的な支出であり、指標の設定には馴染まない。	各事業の円滑な実施の実現のため。	-
08	伝統文化伝承事業	事業開始初年度ということもあったが、効果的に周知を行い目標値を大きく上回る参加者数となった。	子どもたちが鎌倉彫、能、茶道といった鎌倉に古くから伝わる伝統芸能や文化に触れる機会を提供し、次代を担う世代への興味、関心を高めることを目的としており、歴史を継承し文化を創造するまちづくりに寄与する。	令和4年度は企画～実施までの期間が短く、周知に時間をかけられなかったことが課題でもあったため、今年度以降はより多くの集客を見込めるよう、受託事業者と協力しながら事業を進めていく。
09	エリアナ・パプロバ顕彰碑補修修繕事業	一時的な支出であり、指標の設定には馴染まない。	鎌倉ゆかりの人物の功績を記念した顕彰碑を維持修繕することで、今後も広く市民に触れる機会を提供でき、市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	-
10	高田博厚没後35周年記念展事業	目標数値は下回っているものの、前回開催の平成29年度を超える観覧者数を得ている。	鎌倉ゆかりの文化人の作品を展示し、広く市民に公開することで、市民に芸術作品に触れる機会を提供し、市民の文化芸術活動の質的向上に寄与する。	-

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	2 事業費の削減が検討できる事業がある
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	1 民間によるサービスで代替できる事業がある
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1 受益者負担を求めているが、その額や対象等を再検討すべき事業がある
	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
協働		協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市民文化祭企画運営委員会、市民団体

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・変更	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
---------	-----------------------------	---	-------------------------------	-----------------------------	--------------------------------

効率性については、事業費等の見直しの余地があることから、「削減余地」は「ある」とした。
 妥当性については、平成20年度以降指標値を超える市民等が文化行政推進事業を通し文化・芸術に親しんでいることから、「市民ニーズは変わらずにある」とした。
 有効性、事業の上位施策に向けた貢献度については、事業の実施方法等に工夫の余地が認められる。
 協働については当該事業の中で最も観覧者数等の多い鎌倉市民文化祭を市民等で構成する企画運営委員会と共に行っている。
 今後も費用対効果を考慮しながら、事業手法等を検討し、事業を通じて、より多くの市民の文化活動の活性化に資するよう取り組んでいく。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	単位						
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

指標(単位)	単位						
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	当市の相対的な位置付けを他市との比較値によって測る定量評価には、事業の性質上、馴染まないと考える。
----------------------	---